

平戸市生月地区定置網漁業ビジネスモデル計画 【ダイジェスト版】

【策定：平戸市雇用型漁業ビジネスモデル構築推進・普及会議】

背景

平戸市において、定置網漁業は同市の一般漁業の総水揚量8,447tの約40%(3,271t)を占める基幹産業であり、地域経済を支える雇用の場として大きな役割を果たしている。しかし、現状では新規雇用者の確保が困難であり、人材の確保が喫緊の課題となっている。そこで、従来の定置網の「収穫⇒選別⇒集荷⇒出荷」の生産サイクルにとらわれない収益性の高いビジネスモデルを確立し、経営の多角化や雇用環境改善に取り組んでいく必要がある。

課題



大量漁獲時の値崩れ

生簀の不足によりブリ等の大量漁獲時に出荷調整ができず値崩れ



小型魚の付加価値向上

小型のマアジ、マサバ、カワハギは安価な餌用として出荷



地域観光業との連携

世界遺産登録、西九州道路整備等による観光客の増加が見込まれるが、水産物取扱飲食店の認知度不足のため観光客の受入体制が不十分



雇用の確保と改善

新たな取組に対応するための新規雇用の確保と休漁期を含めた周年雇用や休日の増による処遇改善

取組の方向性

「出荷調整」「小型魚の養殖用種苗としての販売や養殖による付加価値向上」「地域観光業との連携」等の組み合わせによる収益向上及び雇用の確保を目指す。

計画内容

①生簀の整備による漁獲物の付加価値向上

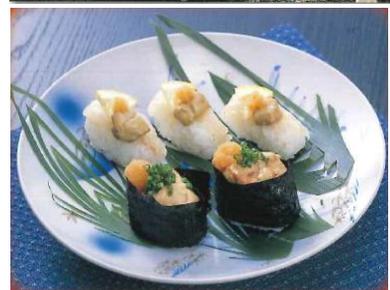
- ・メジナ、ブリ、クエの出荷調整
 - ・小型のカワハギ、マアジ、マサバの養殖用種苗販売
 - ・カワハギの自家養殖
- ⇒単価アップによる生産額の増加

②地域観光業との連携

- ・開催予定の生月お魚フェア(仮称)での養殖カワハギ提供
- ⇒観光との連携による販売促進

③雇用の確保・改善

- ・雇用の確保 雇用者数 48人⇒51人
- ・周年雇用 0⇒3人
- ・休日の増加 70日/年⇒75日/年



地域を牽引するビジネスモデルへ

- 収益性の向上
- 安定した経営体制の確立
- 就労環境改善と雇用の確保

KPI (重要成果指標)

○付加生産額
(営業利益・人件費・減価償却費)

○雇用者数

基準年 (直近5中3年平均)	H32 (目標年)
196百万円	→ 229百万円
48人	→ 51人